

今年も桜がきれいでしたね。みなさんお花見を楽しまれたことでしょう。先日、桜の生け垣（高さは1M前後）が続く園路を歩いてる夢をみました。生け垣の後に桜の並木が続き、夢の中のような心地でうれしさにむせびながら歩いていました。夢の中の発想は、ふだん思いもよらないものをみせてくれます。

もちろん、桜の木の下で楽しいよっぱらいになる現実も、なかなか捨てがたいものではありますな。よい季節になりましたねえ。 (や)

〈インフォメーション〉

- その1 次回の水辺の会ウォッチングは6月6日(日)です  
場所は阿賀野川河口付近です。詳しいことは次のお便りでお知らせします。みなさん、予定に入れておいて下さいね。
  
- その2 環境生活クラブ主催のシンポジウムが5月2日(日)に万代市民会館で開催されます  
今回のお便りに、このシンポジウムのチラシを同封してあります。また、このお便りにも、シンポの主催側であり、かつ水辺の会員である小船井さんに一筆書いていただいています。GWの初日ではありますが、ぜひひ、足をお運びください。

【おわび】

先回のお便りの、7月に開催される自然環境復元シンポジウムの日程に間違いがありました。今回同封したチラシが正解で、7月15(木)・16(金)日のウィークデーです。どうもすみませんでした。

## 佐潟・どんち池ウォッチングに行ったよ

3月27日(土)は快晴で、どこかへいってみようかって気になるそんな午後でした。

水辺ウォッチングの仲間は見学地ごとに増減をしたのですが、総勢(約)22人の大群集でのお散歩となりました。はたから見れば正体不明の異年齢階集団なので、釣り人もなんじゃこいつらはとみていたかもしれません。メンバーには子供達が6人ぐらいいて駆回っていました。久しぶりに外をのんびり歩きながら、春ののどかな気分を味わいました。今回は、特に潟について講義はなく、景色を見たり、なにか感じる事が大事なのでした。

どんち池は墓場(整然と並んでいる明るいお墓場)の近くというのが難ですが、マツや茂ったササなどに覆われ、趣きのある砂丘湖でした。今にも壊れそうな風流な家が一軒(一見の価値あり)。われらウォッチング隊はこの家の造りにいたく魅了され、しばし整っていた頃を想像して思いをはせてみました。家の窓から月夜の晩に池を見降ろしながら一杯、もう一杯と酒を酌み交わすなんてしてたんでありましょう。まだ訪れたことのない方はぜひ明るいうちに行ってみましょう。

佐潟は、私が7~8年前に行ったときと様変わりしていて、へえー公園になったんだと驚きました。潟湖にボートを浮かべている人も、釣り人も、遊んでる子供たちもいました。われらも水辺で楽しむ道具を何か持ってくればよかった。まあウォッチングという行為自体も楽しいけれど。残念なことに野鳥観察舎が開いていなかったんで、水面が風で波立ってきらめくのばかり見ていました。遠くの水面になんだかわからん水鳥が群をなしていたよ。近くの岸には、人見知りしないアイガモのつがい(?)がいたよ。



佐潟の野鳥観察舎の前で。  
全員集合!

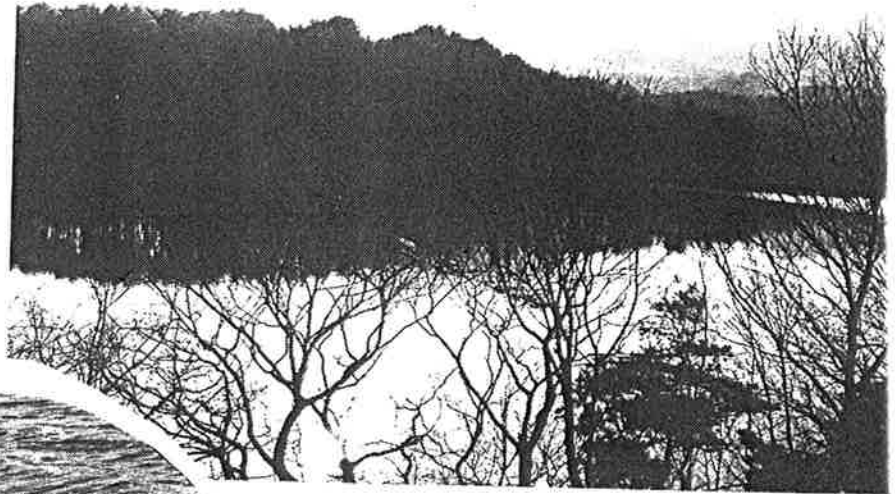
巻町角田山の裾にある上堰潟と仁箇堤にも行って見ました。かつて新潟平野は泥湿地と潟湖の点在する土地であったのだ。それを開拓して、今の水田（又は畑地あるいは休耕田）を作った先人の苦勞を偲ぶられるのであります。仁箇堤は今がちょうど桜の見ごろ、山並みと平野の景色が調和の取れた絵のように見えることでしょう。（当日はもりあがってここで水辺の会の花見をしようと急遽決定したのですが事務局の日程調整がうまくいかず中止になりました。期待してた方には本当にごめんなさい。）

仁箇堤も行ってみる価値ありと思います。巻町の観光地なんだそう。

最後のオプション、厚生年金スポーツセンターのトロン温泉にまでたどりつき、いい汗をながして帰ってきたのであります。

とにもかくにも、休みの日は万代シティにお買物にいくだけじゃ飽きちゃった、そんな方に、休日の水辺ウォッチングは新鮮です。次回は阿賀野川河口部の探索です。沢山の人に来てくれるといいな。

（文責：川口）



風光明媚な 仁箇堤からのけしき  
ふうこうめいび



かもかもしれません。

…鳥の名前、知りたいな……

## [都市河川フォーラム2 都市の中の川…トータルデザインへのアプローチ] に参加して、普通がすごいことに気づく

去る3月18、19日と横浜市で上記のタイトルのシンポジウムが開催されました。主催は「都市河川フォーラム実行委員会」、共催は、よこはまかわを考える会／都市河川研究会／日本河川開発調査会で、大熊先生も講師として参加され、全国各地から行政、民間、個人、団体、老若男女をとわず、500人前後の人が集まりました。これだけの人が集るとは、当初主催者側は予想していなかったとのことで、川に対する関心が、いかに高まっているかを見せつけられました。また、開催地が全国でも先進的な自治体として知られている横浜市であったことも、人を呼んだ大きな要因の一つであったと思います。

フォーラムは、1日目が全体会と分科会（計画論、技術論、参加・活用論、その他に「阿賀に生きる」の上映もありました）、2日目がエクスカージョン（横浜の川の見学会）という構成で、私は2日間とも会社の出張として参加させてもらいました。

2日目のエクスカージョンの見学地は、梅田川多自然型川づくり→いたち川低水路→和泉川親水広場で、今回のフォーラムの中でも特に印象に残っています。その大きな理由として、設計者が同行してくれたために、設計の意図や構造など、現場での説明が充実していたことがあげられます。全体的には横浜市の下水道課の吉村伸一さん（7月のシンポで新潟へいらっしゃいます）が中心となり説明して、あとは担当のコンサルの方や横浜市の方などが参加者の質問に答えてくれたりしていました。わたしは「やっぱり、現場だよな」と非常に納得してしまい、建物内でのスライドやお話では味わえない現場の雰囲気にはひたっていました。

このエクスカージョンを通じ、自分自身が今まで見落していた大切な視点に気づきました。

公園整備の場合、全体の地形等については、工事完了時がほとんどが完成時となります。しかし、河川の場合は、河川自身の力（流水作用）によって、時間をかけて微地形が形成され、多様な流れが作りだされ、生物の生息環境を豊かにしていきます。



## 5月2日(日)は環境シンポ! 皆さんぜひ来てね!

別紙のチラシの通り、環境生活クラブと文化現場の共催で、「森へ行きましょ娘さん」と題したシンポジウムを万代市民会館で催します。「人間と野性動物との共存」をメインテーマに、講演ではツキノワグマの話、パネルディスカッションでは、野性動物保護について専門家が討論します。

新潟でツキノワグマの保護をテーマにした講演やシンポジウムが行なわれるのは、私たちの記憶ではこれが初めてではないかと思えます。講師は、下記の方々です。

①講演をしてくださる板垣さんは仙台在住で32歳。郵便局に勤めるかたわら、「ツキノワグマと棲処の森を守る会」を1986年より主宰、宮城県を中心に、ツキノワグマの保護とツキノワグマを含めた多くの動物が棲息できる森林環境を守っていきこうと活動しています。会員は現在70人以上で、宮城県内だけでなく東北各県や東京、埼玉、山梨、静岡、新潟にもその輪が広がっています。地元の「河北新報」や朝日、読売などの各紙にその活動はたびたび取り上げられているほか、雑誌「BE-PA-L」や「アニマ」などにも紹介されました。特に、全都道府県知事にツキノワグマの保護政策について質問状を送り回答を求めた活動は、1988年2月22日の朝日夕刊に取り上げられ、その3日後、連載マンガ「ペエスケ」のネタになりました。豊富な経験と若さに似合わぬ見識に裏打ちされたお話は、新鮮で興味深いことばかりです。

②パネラーは、以下の方々です。

(1)風間辰夫さんのテーマは「野鳥と人間との共存を実現するために」(仮)。

風間さんは現在、「愛鳥センターさえずりの里」の副参事として、けがを負ったり病気になった野鳥の保護にあたるかたわら、日本鳥類標識協会副会長、日本鳥類保護連盟専門委員として全国的に活躍しており、いまさら説明するまでもない有名人。今回は、県職員としての立場でなく、野鳥保護の専門家としてお話をさせていただきます。

(2)長島義介さんのテーマは「昆虫たちの生存環境と人間」(仮)。

長島さんは、新潟県の中学校、高校の理科教諭を経て、現在新潟青陵短期大学教授。昆虫の専門家としてその名を知られているほか、「角田山を守る会」と「環境ネットワーク」の会長をつとめ、雪割草成育地の保護育成などに活躍しています。今回は、昆虫と自然環境について、素人にもわかりやすくお話をさせていただきます。

(3)藤田久さんのテーマは「ムササビから自然と人間を眺めてみる」(仮)。

藤田さんは現在、新潟西高校の生物の教諭。以前よりムササビの研究を続け、今も生徒たちとともに観察を行なっています。「ムササビは、むしろ人里近くに住む動物」と言う藤田さん。人間に身近な動物の生態を通じて、自然のあるべき姿について語ってまいります。

(4)星野求行さんのテーマは「林業がなきゃ、環境も動物も守れない」(仮)。

星野さんは、安田町在住の林業士。約2000町歩の山を持ち、大規模に林業を経営するかたわら、環境問題にも積極的に発言。そのユニークな人柄と発想が注目を集めています。最近木炭作りにも興味を持ち、燃料としてだけでなく、脱臭剤として、そしてインテリアとしての「飾り炭」の製作に、今は夢中です。今回は、とかく目の敵にされがちな林業が、いかに国土保全に必要なものかお話してくれるほか、鳥獣保護員や県認定森林インストラクターの資格も持つ星野さんから見た、山の生き物について、生き生きと話してくれます。

環境問題についてあまり詳しくない人にもわかりやすく、おもしろいお話が聞けるイベントです。皆さんお誘い合わせの上、ぜひ会場にお越し下さい。

事務局 文化現場(小川弘幸代表) ☎025-270-0544

事務局以外の連絡先 小船井秀一(☎0256-52-3115加茂農林高校、☎0256-52-6537自宅)

文責 〇